慶應義塾
2023年度　事業計画

－ 目 次 －

慶應義塾アクションプラン	1
はじめに／事業計画の構成	2
Ⅰ　教育	3
Ⅱ　研究	6
Ⅲ　医療	7
Ⅳ　産学連携	8
Ⅴ　社会貢献	9
Ⅵ　協生環境推進	10
Ⅶ　経営・運営基盤	11
2023年度の主な投資計画等	14

2023.3

Keio University

慶應義塾は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

慶應義塾アクションプラン　2021-2025 策定方針について

◆ 基本概念

未来の先導者、グローバルシチズンとしての理想の追求

◆ ５つの柱（アクションプラン策定の指針）：学問による以下の追求

1. 民主主義と社会平和の健全な発展	**4. 科学技術の革新と自然環境の保全**
2. 協生社会の実現と経済社会の維持	**5. 医療・データサイエンスの新展開による健康で幸福な人生の達成**
3. 持続可能な社会の構築と生活の質の向上	

５つを柱として10年後（2031年）、30年後（2051年）、50年後（2071年）の社会のあり方に対する

教職員と塾生の当事者意識を徹底的に高め、未来先導に集中できる環境を整える

◆ 環境を整えていくための留意事項

1. 運営基盤の整備
- 財務基盤の強化
- 法務管理の整備と対応力の充実
- 協生環境推進の強化
（公正かつ包摂的な教育・研究・医療環境の整備）
- キャンパス整備計画の策定
- デジタル化の推進

2. 研究・教育方針の明確化
- 教員の学者としてのキャリア形成と国際貢献力の強化
- 未来の先導者としての塾生の教育の充実

- 独立の気力、自由・活溌な精神
- 歴史意識、社会的責任感、価値判断する資質の涵養
- 表現力・言語力・共感力・演説力
（学問・教養に基づく先導性と説得力）
- 技術力（AI・プログラミング・データ解析力等）
- グローバルな対話力、協生力、多様性包摂力
- 社会実装力、ビジネスマインド、起業家精神

3. 先鋭的研究の創出
- 研究者と塾生が大胆につながり、世界が参照する新しい総合知の創成

◆ アクションプランの具体化（プロジェクト化）に向けて

教職員との対話	塾生との対話	塾員との対話	社会との対話
提案・意見を集め、それぞれが掲げる義塾の目的を理解	塾生の考えを理解し、未来の先導者としての当事者意識を向上	社中の協力を深め、全社会の先導を議論する	課題に応じて塾外との対話を深め、必要に応じて検討会を構成

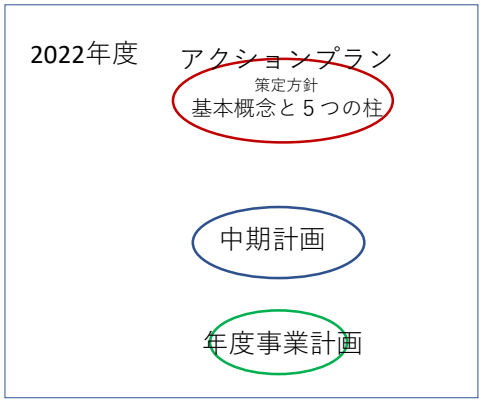
対話を重ね、５つの柱に基づく未来の先導者、グローバルシチズンとしての理想の追求にむけたプロジェクトの具体案と計画を2022年夏以降に順次まとめ、理事会、評議員会での報告・協議・承認を経て実行に移す

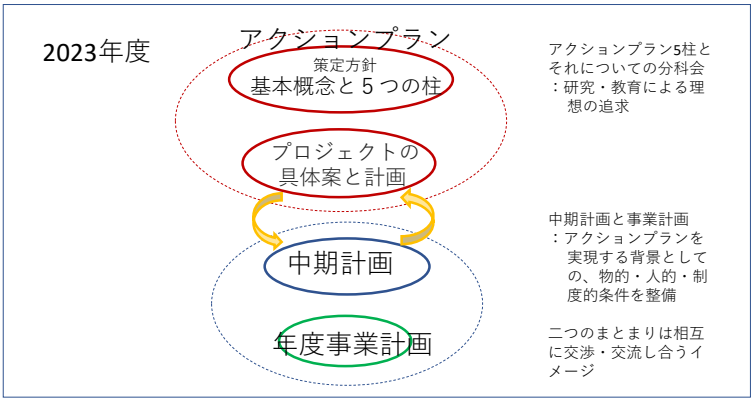
アクションプランと事業計画について（関係性）

- **2022年度 中期計画**（2021年9月-11月頃策定）

  アクションプランの「基本概念」「５つの柱」「留意事項」を念頭に検討

- **2023年度 中期計画 と アクションプランの「プロジェクトの具体案と計画」の関係性・位置づけ**





はじめに

年度事業計画では、中期計画2022-2026に基づき本年度に実施すべき課題（実施項目）を掲げています。実施項目は、中期計画の大・中カテゴリごとに掲載しております。

また、ここに掲載していませんが、各部門の個別事情に応じて、より詳細な実施項目を各部門で立てています。それらを含め、すべての実施項目は本計画・中期計画の着実な実行に資するよう、自己点検・評価として達成状況を確認・評価してまいります。

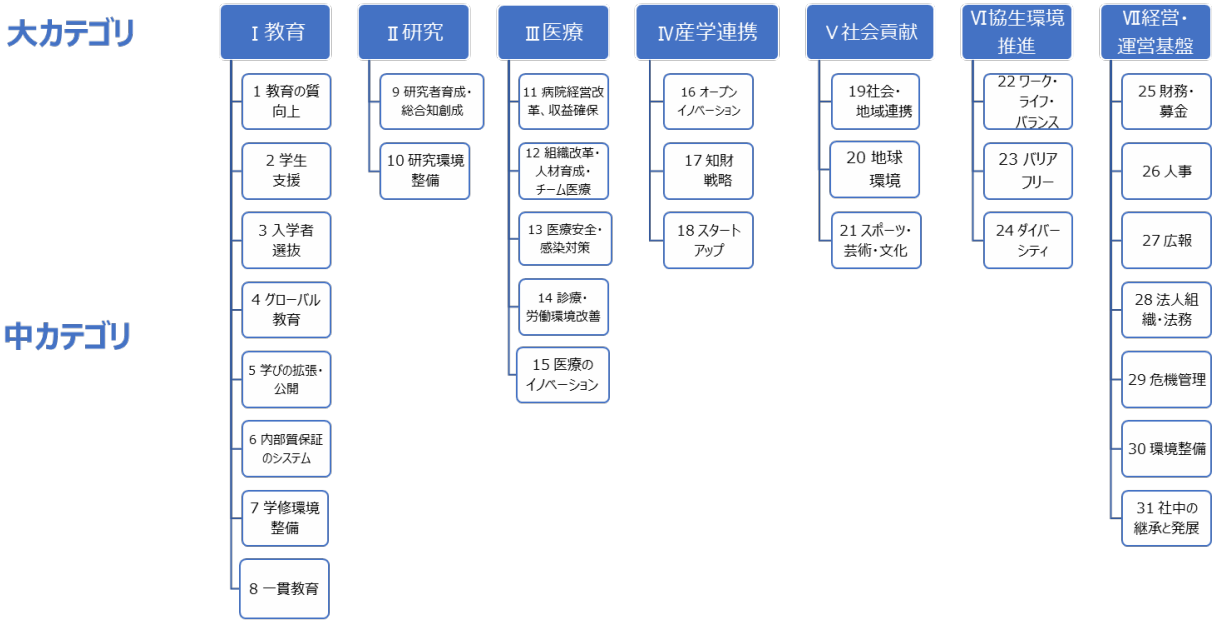
凡例

- 2023年度事業計画は、中期計画 2022-2026と同様に、大カテゴリ（Ⅰ教育～Ⅶ経営・運営基盤）、中カテゴリ（1教育の質向上～31社中の継承と発展）から構成されています。

- 中期計画の事業項目に対応する項目には、末尾に（中計①）のように該当項目番号を付しています（「本年度の新たな取り組み等」についてのみ）。
  （例）2023年度事業計画
  1　教育の質向上
  全塾的なアセスメント・ポリシーの制定に着手する（中計③）

  中期計画 2022-2026
  1　教育の質向上
  ③多様な観点・基準のもとで学習成果・教育効果を定性的・定量的に測定・評価するための全塾的なアセスメント・プランを策定する

事業計画の構成



SDGsに関連する取り組みには、各目標（1～17）のアイコンを付しています。

Ⅰ　教育（1/3）

1　教育の質向上

学修者本位の教育の実現に向けて、学部・研究科の学位プログラムのさらなる充実を促進します。また、学部・研究科等を横断したプログラムを継続的に展開し、多様な人材育成を推進します。

【本年度の新たな取り組み等】

- 大学院共通科目・共通プログラムを開講する（中計①）
- 2022年に開設された教学マネジメント推進センターを中心に、学部・研究科における学位プログラムの総点検を行う（中計②）
- 全塾的なアセスメント・プランを策定する（中計③）

2　学生支援

課外活動を含めた学生生活、奨学金や授業料減免の福利厚生、卒業後を見据えた就職進路の3つの観点を主として支援を行います。

〈学生生活支援〉

学生生活におけるリスクへの教育や注意喚起の機会を増やすとともに、多様な相談事項に丁寧かつ迅速に対応する学生相談室の体制をより充実させ、安心・安全なキャンパス維持・向上に取り組みます。

〈福利厚生支援〉

経済困窮者への支援や、博士課程への進学促進を目指した奨学金の充実など、学生の様々な状況にあわせた奨学金を検討し、既存の制度も含めた奨学金制度の充実を目指します。また、ダイバーシティの実現を安全・安心な教育環境を整備します。

〈就職進路支援〉

多様な学生の要望・不安に対応するため、進路相談の範囲拡充、求人・企業情報、就職活動資料のWEB化等による情報提供の強化に取り組みます。また、学生の多様な属性や近年の採用傾向等を踏まえ、就職講座等の内容を拡充します。

3　入学者選抜

社会の変化、とりわけ新学習指導要領に対応するための学部入試改革の実行に向けて準備を行います。　また、国内・国外向けの情報発信機会を引き続き拡充し、日本留学フェアやSNS等による英語での情報発信にも取り組みます。

【本年度の新たな取り組み等】

- 全学的な入学広報イベントの開催等（中計③）

4 グローバル教育

海外協定大学・研究施設等との連携・協力の強化とグローバル人材の育成に向けて、「スーパーグローバル大学創成支援事業」における諸施策や、全塾および各学部・研究科等における独自のプログラムを継続的に実施・発展させていくほか、APRU(the Association of Pacific Rim Universities) Virtual Student Exchange Programをはじめオンラインを利用した新しい形での国際交流を推進します。
また、2023年には湘南藤沢キャンパス内に国際学生寮のＨヴィレッジが開寮し、約300名の学生がオンキャンパスで共同生活を開始するなど、留学生の受け入れ／送り出しのさらなる充実に向けて、奨学金等による支援、チューター制度・慶應ともだちプログラム・留学生支援団体との連携等による留学生受入体制の整備、派遣交換留学制度における新しい学内選考方法の実施、学部・研究科間の連携強化等に引き続き取り組みます。

5 学びの拡張・公開

FutureLearn※ における新コースの開発、「KMD Forum」【KMD】をはじめとする学部・研究科独自の成果の発信、「Distinguished Lecture Series」【理】等の国内外著名講師による公開講座の実施等
オンライン教育プラットフォーム等を有効に活用し、学部・研究科・諸研究所等における特色あるプログラムや教育・研究の成果を、国内外へ発信します。また、通信教育課程においては、開設75年を契機とした奨学金制度や、一層学びやすい学修環境を整えるための将来構想について検討するほか、
科目等履修生制度の効果を高めるための検討を継続します。

※2012年に英国のOpen University によって設立された、ソーシャルラーニング-学習者同士の学び合い-を重視しているオンライン教育プラットフォーム

6 内部質保証のシステム

教育および研究を対象とした点検・評価による内部質保証システムの一層の定着にあたり、大学認証評価結果に基づいた、PDCAサイクルの観点を含めたシステムの着実な稼働と、その見直しを推進します。
教学面では、2022年度に開設された教学マネジメント推進センターを中心に、点検・評価活動が教学の改善・企画に連動するよう、体制づくりを行います。
各学部・研究科等においても、外部評価・認証機関（日本医学教育評価機構（JACME)【医】、AACSB International【KBS】等）からの評価を踏まえた教育プログラムの実装や、論文水準保証のための博士論文審査体制への予備審査過程導入【社研】など、教育・研究の質保証に向けた独自の施策に取り組みます。

Ⅰ　教育（3/3）

7　学修環境整備

オンラインを活用した学習の支援や、インフラを含めた環境整備を継続します。また、授業・教育等に関わるIT基盤においては、次世代環境への移行を促進し、教員・学生・保証人等への新たな教育ITサービスの提供を推進します。

【本年度の新たな取り組み等】

- 早稲田大学との「早慶和書電子化推進コンソーシアム」において、学生の自発的な学習に有効な大学図書館向け国内和書の電子化の拡充、利便性の向上、新たな購読モデルの構築を目指し、コンテンツを提供する国内出版社との実験・検証を行う(中計①)

8　一貫教育

独立自尊の精神を体現した将来の先導者を育むために行われて来た各校の取り組みを大切にするとともに、これからの時代に求められる資質は何かを引き続き問いながら、新たな取り組みも進めていきます。また、各校の教育を支える、教員支援、施設・デジタル環境改善等も進めます。これまで進めて来た少人数教育については、その効果を検証し最適な運用方法を追求します。

【本年度の新たな取り組み等】

- 新型コロナウイルスにより中断・縮小した各校の国際交流プログラムの再開、新規プログラム＊の検討(中計①)

  ＊一例として、高等学校の中期派遣留学プログラム（2023年3月より英国のChrist College Breconに生徒の派遣開始）等

- 周年事業等＊による新校舎建設計画の推進、新規教育プログラムの開発・展開。（中計④⑥等)

  ＊幼稚舎：2024年に創立150年を迎え、森の復活、複合棟の建設、本館の再整備などを計画し、進めている。
  中等部：2022年に創立75年を迎え、新校舎建設を検討している。
  志木高等学校：2023 年に開設75 年を迎え、「多様な『交際』ですすめる『数理と独立』の教育」を標語とし、その実践の場として新たに多目的棟の建設を計画し、進めている。

- 大学AI・高度プログラミングコンソーシアムと連携して一貫教育におけるAI・データサイエンス教育を開始する（中計②)
- 児童・生徒のメンタルヘルス・健康教育等の取り組みを充実させる

9　研究者育成・総合知創成

「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」、「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」、JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム」などの大型助成事業の推進支援を行うとともに、研究関連情報に関する情報発信の強化を図り、「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」や、「国際卓越研究大学」などの採択に向けて、総合大学としての特色を活かした分野融合研究を推進します。研究倫理・コンプライアンス教育、安全保障輸出管理、研究者育成のための制度整備や体制の充実に向けた取り組みを継続的に実施します。

【本年度の新たな取り組み等】

- WPI（世界トップレベル研究拠点プログラム）の研究推進支援と、大型研究拠点を支援する基盤のさらなる整備を進める（中計③）
- 国際卓越研究大学申請に向けた準備を進める（中計③）
- 研究戦略立案のために、研究IRを推進し、義塾の研究動向、研究力の分析を行う

10　研究環境整備

国際的かつ組織的な研究連携を推進するために、研究支援体制の国際化を進めます。オープンサイエンス、研究データ、情報セキュリティ、研究インテグリティに関する国際連携を推進することによって、研究データや情報を適切に管理しつつ、その活用を促進します。また、研究者の研究時間確保のための支援体制を強化とともに、研究環境におけるDEI（Diversity, Equity, and Inclusion）の推進に取り組みます。

【本年度の新たな取り組み等】

- 研究インテグリティに関する管理体制を整備する
- 国内外の研究大学コンソーシアムでの活動をより積極的に推進する
- 学術情報へのアクセスを広げ、持続的な学術情報基盤を構築するため、電子ジャーナル購読モデルからオープンアクセス出版契約モデルへの転換に向けた取り組みを進める
- 世界共通の図書館間相互貸借システムRapidILLを導入したことにより、学生・研究者への文献入手・提供における効率化とサービスの向上を図る。また、システム導入を契機として、海外研究図書館への文献提供も効率的に拡充する

11　病院経営改革・収益確保

診療科・センター（診療施設部門）・病棟間連携の強化、重症救急患者への対応強化、および、データに基づいた機動的な病院運営等による高度急性期医療の提供体制を強化するとともに、経営改革として、適切な管理・運用体制、人員配置の実現等によるコスト低減、SDGsに対応した病院運営に努めます。また、地域医療連携体制の強化と2023年秋に拡張移転する予防医療センターと本院のさらなる連携強化、移転後の3号館跡地活用計画を推進することで、新たな受診者層の開拓に継続的に取り組みます。

12　組織改革・人材育成・チーム医療

組織改革として、業務・運営の最適化、効率化、業務標準化を継続的に推進し、同時に、働き方改革も促進します。また、専門性と協調性を備えた医療人材の育成、教育研修の拡充を継続的に実施します。

13　医療安全・感染対策

新興感染症への機動的な体制を確保し、患者と職員の安全安心の確保に努めます。また、医療の質の確保と安全対策の強化に向けた取り組みを継続的に実施します。全塾的な感染対策機能を強化するため、保健管理センターと大学病院感染制御部の連携をさらに進めます。

14　診療・労働環境改善

AIホスピタル構想等を通じた、患者サービスの向上、医療提供の効率化、労働環境の改善、デジタル化推進に引き続き取り組みます。さらに、患者満足度調査の分析・活用、国際化の推進等による患者サービスの一層の向上を目指します。
また、だれもが活躍できる職場環境の整備とダイバーシティ（多様性）に配慮した病院運営を推進します。

15　医療のイノベーション

臨床研究中核病院として、日本発の革新的な医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術の開発に必要な質の高い臨床研究や治験の推進に引き続き注力します。また、最新の知見と技術で「健康寿命の延伸」を追求する、予防医療センター拡張移転プロジェクトを着実に推進します。

16 オープンイノベーション

「民間企業からの研究資金等受入額」60億円／年、大学ランキング※4位以内を目指し、インキュベーションプラットフォームの構築やコミュニティの形成など、オープンイノベーションを活用した産学連携のさらなる推進に向けた取り組みを行います。
具体的な例として、信濃町2号館9階に、産学連携・オープンイノベーションを加速するためのインキュベーションプラットフォームの構築に取り組むほか、学部間やコミュニティの形成による情報共有を図るなど、産学連携支援体制の強化を目指します。

※文部科学省が実施する調査「大学等における産学連携等実施状況について」における、「民間企業からの研究資金等受入額（共同研究・受託研究・治験等・知的財産）」の個別実績順位を指す。

17 知財戦略

大学の総合知の成果を社会に還元することにより、成果のさらなる発展と社会の価値創造の機会を高めると同時に、研究活動のエコシステムによる「知識」と「資金」の好循環を、より充実したものにしていきます。
特に、大学の研究成果としての知的財産権の確保・維持管理・活用を図るための組織及び規程等の再整備と運用の強化、Technology Licensing Organization(TLO)機能の充実に取り組みます。

18 スタートアップ

イノベーションエコシステム、ベンチャーエコシステムの構築に向けた諸施策を継続して実施します。
特に、イノベーション推進本部スタートアップ部門の体制と起業活動支援機能をさらに促進し、大学発ベンチャー企業数ランキング※において2026年度までに2位以内（または設立数300社）を目指してベンチャー育成を加速します（2020年度10位、2021年度5位）。

※経済産業省が実施する「大学発ベンチャー実態等調査」における「大学別ベンチャー企業数」の順位を指す。

19　社会・地域連携

各キャンパス等における社会・地域連携の取り組みを推進するとともに、これらの情報収集と効果的な発信を行います。また、湘南藤沢キャンパス、中津市、南三陸町をはじめ、協定を締結している地域との事業に関する検討・計画立案等を行います。

20　地球環境

SDGs達成に向けた義塾のビジョン・目標の設定を目指して「塾生会議」を引き続き実施し、「塾生会議」からの提言を、エネルギー対策や資源の有効活用等の施策にいかしていきます。
環境負荷低減・脱炭素社会への貢献の観点では、カーボンニュートラルにむけた具体的な目標の設定と、その目標達成に向けたアクションプランの検討を進めます。SDGsに早くから取り組んでいる湘南藤沢キャンパスにおいては、2022年11月に自然エネルギー大学リーグに加盟し、2030年までのカーボンニュートラル達成を目指します。また、環境教育活動の一環として、学部・研究科・一貫教育校等における、SDGsに関する教育や慶應義塾学校林での植林・育林等の活動に力をいれます。

21　スポーツ・芸術・文化

＜スポーツ＞
慶應義塾のスポーツの特色を大切にし、体育会・スポーツ関連の諸研究所が連携して、スポーツを通じた塾生の教育を展開するとともに、塾生・塾員が義塾社中を体感できる場として早慶戦の教育的価値の維持向上に努めます。
また、スポーツ医科学に基づく教育、研究のみならず、KEIO SPORTS SDGs プロジェクトの公開シンポジウム等、社会に向けた活動を通じて、先導的なスポーツ人材の育成を進めるとともに、義塾の社会貢献に寄与します。

＜芸術・文化＞
慶應義塾ミュージアム・コモンズを中心に、義塾が所蔵する文化資源に関わる諸機関と連携して、展示企画や義塾文化財データベースの整備・充実を図り、義塾における文化・芸術活動のアウトリーチを進めます。また、外部の統合的デジタルプラットフォームへの公開促進等に引き続き取り組みます。
　加えて、文化・芸術を軸とした諸学部・諸研究科横断型授業や、海外大学ミュージアムと連携した国際連携講座の開設に向けて準備を進めるなど、文化・芸術を通じた教育を展開します。

22 ワーク・ライフ・バランス

育児支援プログラム(KIDS：Keio Infant Daycare Support)や介護支援プログラム(KIND：Keio Intergenerational Nursing & Daycare Support)事業を展開します。特に、新たに開始した、「ナース・キッズ☆サポート」の具体化を図っていきます。また、「女性のからだ支援～Breezeプロジェクト」※における、生理用品の無償配付やディスペンサーの設置などの環境整備を継続するとともに、からだについての正しい知識を得るための、専門家や慶應義塾大学病院の医師らによるミニレクチャーシリーズの一層の充実、「女性のからだ・男性のからだ相談室」等の取組みを通じて、からだのメンテナンス支援を通じたウェルネス増進による、より豊かなキャンパスライフの実現を目指します。

※協生環境推進室が2021年度から進めている、大学病院、保健管理センター等との連携による、からだ支援プロジェクト

23 バリアフリー

2022年度に立ち上がった「@easeプロジェクト」を通じて、協生環境推進室（障害学生支援室）と関係部門が連携し、障害のある学生の修学支援のための各種対応や環境整備、啓発活動等を行います。
また、「@easeサポーター」※による支援活動およびバリアフリーに関する活動を展開します。

※公募により採用され、関連テーマの研修や検定資格取得によりノウハウを身に着けた、障害のある学生への人的サポートを行う学部学生、大学院生のこと。キャンパスを超え、様々な活動を行う。

24 ダイバーシティ

インクルーシブな環境構築に向けた啓発活動や設備環境の充実、「30% Club」「Asia Pacific Women in Leadership Program (APWiL)」への参画をはじめとした、国際的視座に立ったジェンダー・ギャップ解消に向けた取り組み、女性活躍のためのキャリア形成支援に関する諸施策を継続して実施します。
また、DEI（Diversity, Equity & Inclusion）の推進にむけて、他大学や関係機関との交流の推進・連携を強化します。

【本年度の新たな取り組み等】

- Pride Commitment ※に関する事業の企画・推進を進め、DEIの環境を整備する（中計①②）
- 社中協力による、多様な人々の交流を通じて新たな可能性が生み出される場の創出に向けた、Student Competition「SOGI×居場所づくり」の具体化を推進する（中計①）
- 社中協力による、塾員と塾生のメンタリング・プログラム（パイロット）を実施する（中計①）
- 協生環境推進室創立５周年を記念する企画・事業を実施する（中計①）

※SOGI（性的指向・性自認）への理解促進や啓発へ向けた新たな取り組み。相談窓口の開設や自由に語れる場の創出、ワークショップの開催などを総合的に推進する。（「Pride」は、自己の性的指向や性自認に誇りを持つべきとする概念を表す言葉として近年世界的に用いられている。）

Ⅶ 経営・運営基盤(1/3)

25 財務・募金

＜財務＞
基本金組入前当年度収支差額100億円を2022年度からの4年計画で進めることについては、足元の内外環境の変化を踏まえて到達までの期間の見直しも視野に入れつつ、達成に向けて諸施策を実施します。
また、「減価償却引当特定資産」を一定の基準に基づいて充実させ、取替更新に向けた余裕資金の安定的確保に取り組みます。
さらに、予算・決算において外部研究費（特別寄附金含む）、基金の事業別収支を明確にし、経常事業の真の実力を把握することにより、収支改善を目指します。

＜募金＞
奨学基金の原資となる第3号基本金を、2023年度までに975億円とする目標に向けて、寄付者とのリレーションシップマネジメントの向上に資する先進事例の調査・分析を行い、塾長のリーダーシップのもと、関係部門の教職員と連携しながら、募金活動の強化を行います。また、ご寄付をご検討いただくための積極的な情報発信を継続して行います。

【本年度の新たな取り組み等】

- インターネット募金への移行や、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの新規導入により、時代に即した寄付方法の多様化と収入の増加を目指す

26 人事

グローバルな労働市場における人材獲得を目指し、アカデミアにおける労働市場の動向分析や戦略構築のための調査、また、University Professor（仮称）制度創設に向けた調査を引き続き実施します。
現行制度の点検・評価として、シニアB教授制度の中間的総括や、職員人事給与制度運用面の評価・総括を行います。
また、ハラスメント対策や健康管理、ワーク・ライフ・バランスへの配慮等、安全・安心な職場環境の整備に向けて、各種労働法令基準や社会動向を踏まえたうえで、義塾での施策を引き続き検討します。

27 広報

国内外の課題解決に向けた義塾の取り組みを、多様なステークホルダーに向けて継続的に発信します。

【本年度の新たな取り組み等】

- 慶應義塾のファン、ロイヤリティを持った人を国内外で増やすために、情報を届けるターゲットを明確にした情報発信やステークホルダー別の対応を行う
  （学内各部門と連携した情報発信、早稲田大学など他大学との能動的な連携、留学生や研究者等への国際的なコミュニケーションへの不断の努力を進める）（中計①）
- 慶應義塾に関する報道記事掲載、広聴や広告のフィードバックの発信と継続的な業務見直しによる人的資源の確保
  （webニュース掲載記事の共有、オウンドメディアでの動画等の効果的な利用による数値目標の設定および定常的検証、アーカイブ化のあり方の検討、社中のアドバイザリーグループ等による効率的なコミュニケーションを進める）（中計②）
- 塾内の情報共有を迅速に行うための部門横断的な連携の体制や仕組みを整備する
  （入学センター、各キャンパス広報担当との定期的な情報共有、学内各部門との連携により、広報による課題解決を支援する。）（中計③）
- 学内部門間のさらなる連携を進め、危機管理対策体制やルール化を検討する（中計④）

28 法人組織・法務

法務部を設置し、法務管理の整備と対応力の充実を図ります。また、ガバナンスの実効性を向上させるためガバナンスコードの遵守・見直しを行い、法令改正等の動きを注視し必要な対応を行います。
また、「スーパーグローバル大学創成支援事業（2014～2023年度）」の最終年度としてのまとめを行い、今後も構想テーマである地球社会の持続可能性の向上に貢献していきます。
具体的には、IR活動の一環として、世界大学ランキング等も活用し義塾における課題解決につなげます。

29 危機管理

自然災害等に対応するための体制を整備し、各キャンパスの特性にあわせた事業継続計画（BCP）作成に向けて引き続き検討します。
情報セキュリティについては、規程・ガイドライン等の整備を行うとともに、サイバー攻撃に備えたセキュリティの強化、メールによる情報漏洩対策訓練の実施、各部署における危機意識の啓発やスキルアップトレーニングの実施、インシデントの早期終息に向けた仕組みの開発等に継続して取り組みます。

30 環境整備

<施設>

各キャンパス等において、学生・教職員の滞在環境の改善、施設の安全安心確保、ユニバーサルデザインに配慮した取り組みを実施します。また、各キャンパスの老朽化建物の効率的な建替えと、歴史的空間の保全と活用に向けて、マスタープランの検討を続けます。保有資産の有効活用という観点からは、保有する不動産の有効活用の可能性について洗い出し・検討を行います。

【本年度の新たな取り組み等】

- 日吉キャンパス「人間交際エリア」構想※：藤山記念館レノベーション計画の実施にあたり、多様な塾生の多彩な活動に対応した設計や持続可能な運営を検討する（中計②）

※義塾最大の学生数を誇り，塾生の課外活動の拠点としても機能している日吉キャンパスが果たすべき役割（『いごこちのよいキャンパス』『芸術活動キャンパス』『イノベーションキャンパス』『サスティナブルキャンパス』）を実現する場として，藤山記念館・課外活動棟（塾生会館）・大学食堂・購買施設棟（大学生協）などが立ち並ぶエリアを「人間交際エリア」としてさだめ，学生などにとって，『居心地のよい交流活動拠点』『様々な活動の成果発表の拠点』として再整備を行う計画

<IT、デジタル化>

様々なDXを可能とするIT基盤を構築するため、職員が利用するPC・複合機・ネットワークの環境や、統合サーバシステム環境の更新に向けて継続して取り組みます。具体的には、端末のエンドポイントセキュリティについても考慮した業務用ネットワークのデザイン検討や、事業継続性を意識したハイブリッドクラウド環境へのサーバ移行等を実施します。また、会計DXの一環としてリプレースされる経理・財務・調達IT基盤の安定的運用を行うとともに、DX推進委員会を通じて戦略立案、ICTガバナンス等について検討し、さらなるDXの実現を目指します。

- 【本年度の新たな取り組み等】
- 慶應ID（keio.jp）の利用拡大に向け、次期認証基盤への移行ならびに慶應シングルID（仮称）の実現を目指し、塾内ID管理基盤の再整備を推進する（中計④）
- 教職員用のイントラサイトを見直し、塾内の情報発信・情報共有・コミュニケーションの一元的かつ効率的な基盤をデザインし、再整備する（中計⑤）
- クラウド環境をプラットフォームとするような新たな取り組みに対しても迅速かつ柔軟に対応できるよう、レガシーサービス環境（各サブドメインにおけるメールやWeb環境）の整理計画を検討する

31 社中の継承と発展

義塾と塾員、塾員相互間交流のさらなる活性化をめざし、キャンパスにおける交流の場の提供、義塾の「知」を発信する企画の展開、統合的データベースとの連携を見据えた塾員情報の整備・充実に取り組みます。
また、福澤諭吉記念慶應義塾史展示館の活動を発展させ、これを活用した塾生向けの教育プログラム等を展開します。さらに、慶應義塾史に関する資料の収集管理に努めるとともに「小幡篤次郎著作集」をはじめとした各種書物の編集刊行事業を継続して実施します。

2023年度の主な投資計画等

- 幼稚舎複合施設（仮称）建設計画 13.7億円
  財源：経常費、寄付金　（事業規模　総額35.0億円）

- 志木高等学校多目的棟（仮称）新築工事 8.7億円
  財源：経常費、寄付金　（事業規模　総額12.5億円）

- 三田一丁目計画建設工事 8.0億円
  財源：経常費　（事業規模　104.0億円）

- 藤山記念館改修工事 4.0億円
  財源：寄付金　（事業規模　4.0億円）

- 予防医療センター拡張移転 25.8億円
  財源：経常費　（事業規模　25.8億円）

- 医用工学室管理機器更新　18.8億円

- 冷暖房設備更新工事（三田、日吉、矢上、湘南藤沢）6.3億円

©DBOX for Mori Building Co.

予防医療センター移転先の麻布台ヒルズ
（パース中央の一番高い森JPタワーへ入居予定）

志木高等学校多目的棟（仮称）北西側外観パース（想定）